

外傷と先天異常

責任者名：生木 俊輔

学期：後期

対象学年：3年

授業形式等：講義

◆担当教員

生木 俊輔(口腔外科学Ⅱ 専任講師)

江島 堅一郎(歯科放射線学 専任講師)

古川 明彦(口腔外科学Ⅱ 助教)

米原 啓之(口腔外科学Ⅱ 教授)

◆一般目標 (GIO)

口腔領域におこる病変の本体、原因、成り立ちおよび経過を理解し、口腔病変を治療するために外科的治療法を修得する。

◆到達目標 (SBO s)

- ・顎骨骨折の分類が説明できる。
- ・顎骨骨折の全身・局所の症状を説明できる。
- ・損傷の治癒過程を説明できる。
- ・損傷に対する処置法を説明できる。
- ・骨折の画像診断ができる。
- ・歯の脱臼・破折と歯槽骨骨折の症状が説明できる。
- ・歯の脱臼・破折と歯槽骨骨折の診断ができる。
- ・歯の脱臼・破折と歯槽骨骨折の治療法を説明できる。
- ・上顎骨骨折の種類を説明できる。
- ・下顎骨骨折の臨床症状について説明できる。
- ・下顎骨骨折の骨片の偏位について予測できる。
- ・顎骨骨折の治療法を述べることができる。
- ・顎骨骨折の後遺症を予測できる。
- ・顔面および口腔における軟組織の各種損傷の種類を列挙できる。
- ・顔面および口腔における軟組織の損傷の治療法を列挙できる。
- ・顎顔面口腔領域に生ずる先天異常・後天異常についてその原因を分類できる。
- ・歯の発育障害による異常の診断ができる。
- ・口腔領域における軟組織の異常について説明できる。
- ・顎口腔領域に関係する症候群について説明できる。
- ・顎変形症の原因、病態について述べることができる。
- ・口唇裂、口蓋裂、顔面裂の病態を分類できる。
- ・唇裂、顎裂、口蓋裂の治療を説明できる。
- ・口腔顎顔面に関連した症候群について説明できる。

◆評価方法

平常試験1 (25%) 平常試験2 (25%) により評価する。フィードバックとして平常試験問題の解説を行い、さらに理解を深める。総括として定期試験の成績 (50%) により評価する。

◆オフィス・アワー

担当教員	対応時間・場所など	メールアドレス・連絡先	備考
江島 堅一郎	月, 水曜日 17:00~18:00 歯科放射線学講座研究室	ejima.ken-ichiro@nihon-u.ac.jp	
古川 明彦	月, 木曜日 17:00~18:00 口腔外科学第II講座研究室	furukawa.akhiko@nihon-u.ac.jp	
生木 俊輔	月, 木曜日 17:00~18:00 口腔外科学第II講座研究室	namaki.shunsuke@nihon-u.ac.jp	
米原 啓之	月, 木曜日 17:00~18:00 口腔外科学第II講座研究室	yonehara.yoshiyuki@nihon-u.ac.jp	

◆授業の方法

講義形式で行う。損傷の治癒、歯槽骨骨折、上下顎骨折、歯や粘膜の異常、顎の発育異常、顎顔面裂について理解できるように多くの視覚素材を用いる。損傷の治癒、外傷について理解度を評価するため平常試験を行う。

【実務経験】生木俊輔 現在、在職している日本大学歯学部附属歯科病院口腔外科で口腔外科専門医としての経験等の話を交えながら、口腔外科臨床現場において本教科で学ぶ内容の理論や手技がいかに実際に生かされているかについて学ぶ場を提供したいと考えています。

【実務経験】江島賢一郎 現在、在籍している日本大学歯学部附属歯科病院歯科放射線科での臨床をもとに歯科放射線科の特殊性をわかりやすく解説したいと考えております。

【実務経験】古川明彦 現在、日本大学歯学部附属歯科病院口腔外科に在籍しており、その経験を活かし該当教科の理論と実際の臨床で行われる治療についてわかりやすく解説したいと思います。

【実務経験】米原啓之 以前在籍していた東京大学医学部歯科口腔外科と現在在籍している日本大学歯学部附属歯科病院口腔外科での希少な症例等の臨床経験をもとに現場でどのような理論をもとに治療が行われているかを解説したいと考えております。

◆教材 (教科書、参考図書、プリント等)

種別	図書名	著者名	出版社名	発行年
教科書	口腔外科学 第5版	工藤逸郎 他	学建書院	2016年
プリント	配布 PDF 資料			
参考書	最新口腔外科学 第5版	榎本昭二 他	医歯薬出版	2019年
参考書	標準口腔外科学 第4版	野間弘康	医学書院	2015年

参考書	現代口腔外科学 原著第5版	里村一人	わかば出版	2011年
-----	---------------	------	-------	-------

◆DP・CP

コンピテンス1：歯科医師としてのプロフェッショナリズム

コンピテンシー：1-1、1-2、1-3

対応するディプロマポリシー：DP1

コンピテンス4：歯科医学及び関連領域の知識

コンピテンシー：4-1、4-2、4-3、4-4、4-5、4-8、

対応するディプロマポリシー：DP4

コンピテンス8：生涯学習

コンピテンシー：8-1、8-2、8-4

対応するディプロマポリシー：DP8

◆準備学習(予習・復習)

必ず事前に配布PDF資料、教科書および参考書を読んで、授業内容の項目を理解しておくこと。

◆準備学習時間

各々授業時間相当を充てて予習1時間と復習1時間を行うこと。

◆全学年を通しての関連教科

遺伝学（1年後期）

神経（2年前期）

歯の解剖実習（2年前期）

運動器（2年前期）

組織学（2年前期）

組織実習（2年前期）

人体解剖学実習（2年後期）

口腔組織学／発生学（2年後期）

生理学・生化学実習／口腔生理学・口腔生化学実習（2年後期）

口腔生理学（2年後期）

基礎病理（3年前期）

歯科放射線学総論（3年前期）

薬理学総論（3年後期）

炎症と臨床検査（3年後期）

◆予定表

回	クラス	月日	時間	学習項目	学修到達目標	担当	コアカリキュラム
1		9.12	3	1. 損傷総論 (教1)pp.101-103	・各種の基準に基づいた顎骨骨折の分類と、顎骨骨折の全身・局所症状	生木 俊輔	C-5-3) 修復と再生

					について解釈できる。		E-2-4)-(2) 外傷
2		9.19	3	2. 損傷の治癒および処置 (教1)pp.103-107	・損傷の治癒過程について理解するとともに損傷に対する処置法についても習得する。 ・顔面および口腔における軟組織の各種損傷の種類を理解するとともに治療についても解説できる。	生木 俊輔	C-5-3) 修復と再生 E-2-4)-(2) 外傷
3		9.26	3	3. 外傷の画像診断	・骨折などの外傷の診断と治療に必要な画像診断について解釈する。	江島 堅一郎	E-1-2) 画像検査を用いた診断
4		10.10	3	4. 歯の外傷および歯槽骨骨折 (教1)pp.107-109 9. 顔面および口腔軟組織損傷 (教1)pp.116-119	・歯の脱臼・破折と歯槽骨骨折の症状、診断、治療について比較分類できる。	古川 明彦	E-2-4)-(2) 外傷
5		10.17	3	5. 上顎骨骨折 (教1)pp.109-110	・上顎骨骨折の種類、その臨床症状について説明できる。	生木 俊輔	E-2-4)-(2) 外傷
6		10.24	3	6. 下顎骨骨折 (教1)pp.110-112	・下顎骨骨折の好発部位、臨床症状について学ぶ。特に骨片の転位様相について具体的に述べる事が出来る。	生木 俊輔	E-2-4)-(2) 外傷
7		10.31	3	7. 顎骨骨折の治療 (教1)pp.112-115	・顎骨骨折治療の原則、固定期間中の注意および起こり得る後遺症などについて説明することが出来る。	生木 俊輔	E-2-4)-(2) 外傷
8		11.7	3	8. その他の骨折 (教1)pp.115-116	・頬骨・頬骨弓骨折、眼窩底骨折、小児の顎骨骨折の特徴、陳旧骨折に対する対処などについて具体的に述べる事が出来る。	米原 啓之	E-2-4)-(2) 外傷
9		11.14	3	平常試験 1	損傷の治癒と外傷についての総括の平常試験 (25 分) を行い評価。平常試験問題の解説 (25 分) でフィ	生木 俊輔 米原 啓之 古川 明彦	E-2-4)-(2) 外傷

					ードバックを行い理解を深める。	江島 堅一郎	
10		11.21	3	10. 先天異常と発育異常 1)異常の分類および歯の発育障害による異常 (教1)pp.67-77	・顎顔面口腔領域に生ずる先天異常，後天異常についてその原因を理解し，それを基に分類することができる。また歯の発育障害による異常の症状，診断，処置について解説することができる。	生木 俊輔	E-3-1) 歯と歯周組織の発生及び構造と機能
11		11.28	3	10. 先天異常と発育異常 2)軟組織の異常と症候群 (教1)pp.97-99 (教1)pp.281-298	・先天的な軟組織異常について理解する。また顎口腔に關係する症候群について説明できる。	生木 俊輔	E-2-4)-(4) 口腔粘膜疾患 E-2-4)-(10) 口腔・顎顔面領域に症状を現す疾患
12		12.5	3	10. 先天異常と発育異常 3)顎の発育異常 (教1)pp.77-85	・上顎前突，下顎前突等の顎変形症について，その原因，病態および症状等について具体的に述べる事が出来る。	生木 俊輔	E-2-3) 口腔・顎顔面領域の発生と加齢変化 E-2-4)-(1) 先天異常及び後天異常 E-2-4)-(11) 口腔・顎顔面領域の機能障害
13		12.12	3	10. 先天異常と発育異常 4)顎顔面裂異常：口唇裂，口蓋裂 (教1)pp.85-89 5)顎顔面裂異常：口唇裂，口蓋裂の治療 (教1)pp.89-97 10. 先天異常と発育異常 5)顎顔面裂異常：口唇裂，口蓋裂の	・口唇裂，口蓋裂，顔面裂の病態を理解した上で，発生原因，発生頻度など疫学について列挙できる。 ・唇裂，顎裂，口蓋裂の治療過程を理解した上で，各治療時期における検査法，処置，手術術式および予後について述べる事ができる。	米原 啓之	E-2-4)-(1) 先天異常及び後天異常

				治療 (教1)pp.89-97			
14		12.19	3	10. 先天異常と発育異常 6)その他の先天異常 (教1)pp.267-274	・口腔・顎・顔面に関連した症候群について、その原因、症状、診断、処置等について列挙できる。	米原 啓之	E-2-4)-(1) 先天異常及び後天異常
15		1.9	3	平常試験2	先天異常と発育異常についての総括の平常試験(25分)を行い評価。 平常試験問題の解説(25分)でフィードバックを行い理解を深める。	生木 俊輔 米原 啓之	E-2-4)-(1) 先天異常及び後天異常 E-3-1) 歯と歯周組織の発生及び構造と機能 E-2-4)-(4) 口腔粘膜疾患 E-2-4)-(10) 口腔・顎顔面領域に症状を現す疾患 E-2-4)-(11) 口腔・顎顔面領域の機能障害 E-2-3) 口腔・顎顔面領域の発生と加齢変化

